

## デ活関連企業様向け視察ツアーを開催

### 2019.12.04「Eーディフェンス 耐震構造 3 階建て鉄筋コンクリート（RC）造建物振動台実験」

サブプロ(c)「非構造部材を含む構造物の崩壊余裕度に関するデータ収集・整備」の一環として、12月4日（水）に防災科研兵庫耐震工学研究センター（Eーディフェンス）で実施した公開実験「耐震構造の3階建て鉄筋コンクリート（RC）造建物を対象とする大型振動台実験」に際し、データ利活用協議会（デ活）会員企業様向けの視察ツアーを開催しました。当日は、遠方にも関わらず多くの方にご参加いただきました。

公開実験では、災害発生後に対応の拠点となる建物の耐震性能と継続利用性を調べるために、役所を想定し、天井・窓・外壁タイル・屋上置き配管等を取り付けた鉄筋コンクリート（RC）造3階建て建物に対する加振を間近で見学しました。

この実験は、建物が実際に利用される状態を再現することで、災害拠点となる建物の機能継続性の検証に資するデータを収集・整備することを目的としておりました。結果として若干の損傷は見られたものの継続利用が可能な範囲に収まった旨を確認でき、巨大地震時の損傷の抑制と地震後の機能継続性を実現する新たな柱・梁部分の施工方法の有効性についての検証ができました。また、簡易で安価な普及型地震動観測センサや画像解析等によるセンシング技術の活用により、損傷把握のシステム開発に資するデータを収集でき、今後の利活用が期待されます。

公開実験後にはデ活会員企業様限定のイベントとして、兵庫県広域防災センターへ会場を移し、Eーディフェンス井上副センター長から今回の実験の詳細な説明やEーディフェンスでの活動の取り組みの紹介があり、質疑応答が活発に行われました。

平田直総括(防災科研)は、「イベントに参加いただき、研究実験を実際に見て頂けたことが官民連携の新たな取り組みに発展することを期待したい」と抱負を述べました。

この度、参加者の方々からいただきました様々なご意見を活かし、本協議会の活動につなげていけるよう今後も務めてまいります。



災害拠点となる役所建物を想定した3階建てのほぼ実物大の試験体



実験棟および計測制御棟を背景に記念撮影